

春満開

桜の花も満開になり、我が家の前の桃もピンクの花を咲かせています。町では新入社員らしき若いスーツ姿の人をちらほら見かけるようになりました。私も、20数年前の初々しい頃を懐かしく思います。今年も早いもので4月になりました。確定申告を終え、なんとか一段落と思いきや、例年以上になにかとバタバタの日々が続きます。例年ですが、都合により2ヶ月ぶりの執筆となったことをお詫び申し上げます。

今年の確定申告を終えての私の感想です。①例年以上に医療費控除が多かったこと。これは、昨年10月より70歳以上の医療費の自己負担が一部増加となったことも影響しているように思います。②小売・飲食店など、一般消費者相手の商売が引き続き苦戦していること。これらの小規模店舗は、大手チェーン店などとの価格面や品揃え、知名度などの面で明らかに不利であり、さらに、飲酒運転や駐車違反の取締・罰則が強化されたことも大きく影響していると思います。③不動産賃貸の収益性が悪化していること。特に、築10年以上の賃貸マンションなどは、新築の物件が近隣にどんどん建ったり、賃貸派から分譲マンションの購入派へ流れたりして賃料相場が下落し、さらに修繕費などの費用負担が増加したことなどが影響しています。

さて、先日終了したセンバツ高校野球では、常葉菊川高校が優勝しました。静岡県勢としては浜松商業以来29年ぶりの優勝で、その当時のキャプテンが常葉菊川の森下監督自身でした。古くからの高校野球ファンである私は、その決勝戦をテレビで観ていましたので、優勝旗を手にした森下キャプテンが泣きじゃくっていたのを鮮明に覚えています。あれから29年、自身も監督として再び全国制覇を成し遂げたのは偉業だと思います。

常葉菊川は、大会前はどちらかというとバッテリーを中心とした守りのチームという評判でしたが、いざ大会が始まると大阪桐蔭などの優勝候補を相手に逆転に次ぐ逆転で、チャンスでの連打は見事でした。高校野球のセオリーであるバントは決勝戦までの5試合でたった1回しかしなかった。一見「イケイケ野球」と思われる面もありますが、実はこれには監督と選手の固い「信頼」関係があったそうです。

なぜバントをしないのか。監督は「バントでチャンスをつくるより、打ってチャンスをつくる方が得点の確立が高い」「普段の練習でいつもやるのは打撃練習。試合で(バントをして)それが出せないのは選手がかわいそう」という。準決勝までの4試合でほとんど打てなかった主軸の選手2人を、決勝戦でも決して外さずそのままの打順で使い続けた。決勝では見事にその2人がタイムリーヒットを打って優勝に導いたのでした。その時の調子よりも、それまでの過程から生まれた「信頼」を重視し、それが見事大舞台で花を咲かせたのでしょう。信じて任せるといえるのはなかなか難しいのですが、共に苦しい練習を歩んできた信頼関係があるからこそ、成しえたのではないのでしょうか。

しかし、経営は一発勝負の高校野球と違って継続性が重要になってきます。10年、20年と続けて行こうと思えば、セオリー、高校野球で言えば連打より、より確実なバントが重要ではないかと思います。経営はバクチと同じと考える人もありますが、勝負が必要な時もありますが、バクチにはいけないと思います。イチローでさえ10回の打席で6回以上凡退します。連打の確立というのは3割打者が2人続いたとして、たった9%(0.3×0.3)になります。さらに3連打となると2.7%となるので、科学的に考えれば常葉菊川のマネはなかなか出来ない、ほんとに希に成功した事例といえるでしょう。そこには目に見えない「神がかり」的な勢いというものが作用していたものと思います。だからスゴイのですね。